
私が考えた、ガンダムAGEの第1話の展開

和本明子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私が考えた、ガンダムAGEの第1話の展開

【Nコード】

N7200X

【作者名】

和本明子

【あらすじ】

色んな評価がありますガンダムAGE。

ちよつと知人とお話していた時に、ふと浮かんだ展開を書きだしてみました。

展開案ですので、あらすじ的な概要文な感じです。

小説ではないです。勢いで書いたので誤字脱字があり、見難いです。ご了承ください。

過去。

フリットが暮らすコロニーがUEに襲われている。

命の危機に瀕しているロボット研究者の母親からメモリーを渡されるフリット。

そして背後にはUEがあり、絶対絶命の状況。

それを救ったのが、謎の少女・山田^{ユリン}。ニュータイプの何かでUEを追い払う。そして幼いフリットに何かを伝える。

しかしフリットは、この時の記憶（出来事）は覚えていなかった。（母親が亡くなったことの方が印象が強い^{ショック}ため）

メモリーには、ガンダム（ロボット）の動作を制御するプログラムコード（これがAGEシステム）が入っていたが、それはまだ未完成のプログラムコードだった。

フリットは、残された母の形見を完成させようと、苦手だった勉強に励むことになる。

時は流れて、大きくなったフリット。

母から渡されたプログラムは、未だ完成だった。

プログラムの内容が、難解で数世代の先のコードが取り入れられて組み立てていた。それでも、フリット的には95%ほどは出来ていると思っていた。

あと何かをすることで完成できると思っていたが、そこへエミリー（ロボット製作担当の秘書的な役割）がやってきて、軍の報告会へ連れていかれる。

（CM）

フリットの未完のプログラムでは、ロボットは上手く動作せず。自称ライバルが提出したプログラムの方が上手く動作する。

自分の存在に疑問を抱くが、エミリーが励ましてくれる。

(エミリーの方が学校の成績は良かったが、唯一科学の成績だけはフリットに負けて、少し一目を置いていた)

そもそも、なぜフリットが軍関係者(ロボット開発に携われている)なのは、母親が優秀な(むしろ天才だった)ロボット研究者であり、元々軍関係とは繋がりがあった。

そして、母親が残したメモリー(ロボット制御に関するプログラム)をフリットに提出を要求していた。そこでフリットは、交換条件として軍関係者(母親のプログラムを研究させて欲しい)となった。

母親のプログラムコードは、オープンソースとなり、様々な科
学者・研究者がこれを元にして、多くのロボット制御の礎となっ
ている。

ライバルはこのことでフリットを皮肉る。

報告会が終わると、既に夜になっており、フリットは今回の報告
会を反省し、携帯モバイル(iPadみたいなもの)でプログラム
を確認しつつ帰る。

その道中でUEが現れて、コロニーが襲われる。

その光景が、昔の光景をフラッシュバックさせる。そして、謎の
少女・山田^{ユリ}を見かける。

それが影響で、あの時の事を思い出し、山田がフリットに伝えこ
とも思い出す。

山田の言葉が、プログラムのヒントになり、急いで軍の基地に戻

るフリット。

基地に戻ると、ライバルのコードが組まれたロボットがUEに立ち向かっていくが、ロボットの動きはチンタラして、UEの動きに全然追いつけず完敗。

そして、フリットは試験機のガンダムに乗り、改善したコードを入力する。エミリーたちを逃がすために時間稼ぎするために、そのままUEに立ち向かっていく。

フリットのプログラムを入力したロボットは、今までの動きと比べて俊敏で、しかもAI（自動制御）機能も組み込まれていたらしく、フリットが別に操作しなくても自動的に動いてくれて、UEを圧倒し撃退させる。

しかし、プログラムが凄すぎて、機体の方が付いてこれず（要はオーバークロック状態を起こしている）、あっちこっちガタがきてしまい、機体の半分が壊れてしまう。

〜ここで、一話終了〜

実はAGEシステム（プログラム）は、完成されておらず、30%程度の動作しか発揮されていない。フリットは、AGEシステムの完成させるために、ガンダムも改良させていくことになる。

(後書き)

公式の方のフリットは、天才という感じでもないし、ガンダムを造っている感も無いです。そこら辺の描写が欲しいですね。自分の小説を書かずに、何をやっているのだろうか……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7200x/>

私が考えた、ガンダムAGEの第1話の展開

2011年10月19日01時08分発行